

鈴木商店調査書「製油事業」（原書 P18～23）

同店の製油事業は魚油精製、同硬化油及び大豆油、同硬化油、落花生油、石油等にして現在作業工場五ヶ所、準備及設計中のもの六七ヶ所あり。而して、既設投下固定資本参百余萬円、運転資本壹千萬円内外、年産額貳千参四百萬円に達せり。

但、現在の設備は需要の如何に依り、何れも倍額に拡張し得る計画にして、尚目下準備中及設計中のもの全部完成の暁は現在の二倍及至三倍の生産額に達し、一朝有事の場合、全能率を發揮せば優に今日の四五倍に相当する生産額に達し得べしと云う。同各工場に就き略記すれば概要左記の通りなりとす。

鈴木商店魚油工場（原書 P19）

工場所在地 神戸市兵庫西尻池村下筈

年産額 貳拾萬箱

此代金 壹百参四十萬円内外

投下資本額 五拾萬円内外

同 魚油精製工場（原書 P19）

同上 神戸市兵庫西尻池村東浜

同上 四千五百屯内外

同上 壹百七拾萬円内外

同上 七拾萬円内外

鈴木油房（原書 P19～20）

工場所在地 大連市外寺兒溝

年産額 豆油 六千屯 豆粕 四万五千屯

此代金 六百五拾萬円内外

投下資本額 七拾萬円内外

鈴木商店清水製油所（原書 P20）

同上 静岡県清水港

同上 豆油 一万二百五十屯 豆粕 八万二千五百屯

同上 壹千百六拾萬円内外

同上 壹百萬円内外

東海製油株式会社（原書 P20～21）

同上 名古屋市

同上 豆油 二千屯内外 豆粕 壹万五千屯内外

同上 貳百貳拾萬円内外

同上 貳拾萬円内外

製油業総計

年産額 豆粕 十四萬二千屯 豆油 壹万八千二百五十屯

此価額 貳千四百萬円内外

投下資本金（固定資本） 參百拾萬円内外

運転資本総額 壹千萬円内外（原料半）

以上は現在作業中のものにして、尚目下建設着手及計画中のものを挙げれば左の如し。

鈴木商店横濱製油工場（大豆）（原書 P21）

本年末^{しゅんこう}竣功の予定なるが、生産力は大連工場と同一にして一日百五拾屯の計画なり。

但し、^{きゅうよう}急要の際は拡張倍加することを得る設計なりと云ふ。

鈴木商店鳴尾製油工場（大豆及落花油）（原書 P21～22）

約二ヶ年間の予定にて、生産力は横濱、大連工場と同様にして、一日の製造能力、大豆百五十屯、落花生五十屯の設計なり。^{ただし}但、^{きゅうよう}急要に応じて横浜工場の如く倍額まで拡張し得べき計画にて、近々起工の^{はず}筈なりと云ふ。

鈴木商店王子硬化油工場（原書 P22）

東京府下王子大豆硬化油製造工場

同 保土ヶ谷硬化油工場（原書 P22）

神奈川県保土ヶ谷大豆硬化油製造工場

同 静岡県清水港第二工場（大豆硬化油製造）（原書 P22～23）

同店は^{きま}曩に魚油硬化に於て成功せしを以て、今回大豆油の硬化を開始することとし、先づ東京府下王子工場を本年末迄に^{しゅんせい}竣成せしめ、来春早々試験製造を開始し、^{その}其結果を俟って保土ヶ谷及清水港第二工場に着手する^{はず}筈にして、当分の間は前記三ヶ所の硬化油工場にて横浜及清水工場の豆油一日約六千屯を硬化し、将来は清水第二工場にて全部硬化せしむる方針にして、清水二場にては将来水素瓦斯を製造し、之を硬化剤として用い、副産物酸素瓦斯は一般工業用に販売するものなりと。

尚、王子及保土ヶ谷に硬化油工場を設置せり、之れ同地付近に於ては廃品水素瓦斯を安価に買入れ得るの便利あるを以てなりと。

東海製油株式会社（名古屋市）（原書 P23）

同社は今回鈴木商店が名古屋特製豆粕会社を貳拾萬円にて買収し、最近資本金五拾万円を以て創立し、東海道一円に雄飛する目論見にて、将来は生産力を相当増額する計画なりと云ふ。